

— 東日本大震災の映像を見たときに感じたことは

樽林 地震の映像を見たとき、本当にこれが日本で発生した災害なのかと感じました。津波がまちをのみ込んでいくあの映像。自然の猛威と恐怖を痛感せざるを得ませんでした。東海地震が発生すれば御前崎市も同規模の災害になるのではと不安になりました。

— 今回の地震を教訓にした、東海地震を乗り切るための対策は何かがあるか。

樽林 地震で被災地に甚大な被害をもたらした主要因は津波です。東北地方でも周期的に地震が発生することから、津波被害を防ぐために堤防が建てられました。しかし、堤防は次々と津波にのみ込まれ、市街地が壊滅したのです。東海地震でも揺れが収まったらすぐに高台へ避難する必要があります。日ごろから避難経路を確認すること、家具を固定しすぐに家の外へ

## Interview

### 樽林政晴さん

御前崎市防災指導員

# 想定外起こり得る あらゆる備え重要

政府の地震調査員は、東海地震の30年以内の発生確率は87%以上と発表している。東日本大震災の知見を踏まえた東海地震に対する備えを、樽林政晴市防災指導員に聞く。



逃げられるように備えておくことが重要です。合言葉は「地震だ！津波だ！すぐ避難」。遠い所よりも高い所へいち早く逃げるのが大切です。

地震や津波の恐ろしさ、避難方法や避難場所を伝える防災教育、家族で災害時の行動を話し合う家族防災会議も欠かせません。私たちのほとんどは大地震を経験したことがなく、子どもは震災に対する知識もありません。大災害を生き抜くために学校や地域、家庭で災害時の教育や確認をする必要があります。

さらに、地震は大自然が相手。必ず想定外が起こります。東海地震は甚大で広域的な被害になることは間違いないです。行政が機能しないことも十分考えられます。その際には、次々に発生する課題を自主防災会で解決していかなくてはなりません。想定外に対応するために、水、食料、物資の備蓄、要援護者救助、

避難所運営などさまざまな角度から防災体制を見直す必要があります。

— 今後まちが力を入れなくてはならない対策は何か。

樽林 現在市は、公共施設などに海抜からの高さを記したステッカーを貼っています。今後は津波を考慮した上で、避難所や災害対策本部設置場所などを再検討すべきだと考えます。万一、原子力発電所で事故が発生したケースも想定して、住民の移送手段を明確にしておくことや県外の避難先も確保しておくべきだと思います。

いつ地震が発生するかは誰にも分かりません。日ごろから頭の片隅に「防災」の2文字を入れて行動することが防災意識を高めます。人間の力は、自然のエネルギーの前にはほんの微力程度にし過ぎません。だからこそ、自分や大切な人の命を守るために、徹底して備える必要があるのです。